

第 61 回アルゼンチン共和国杯競馬 観戦記

宍戸 和郎



2023年11月5日(日)、府中の東京競馬場にて、「第61回アルゼンチン共和国杯」(3歳上・DII・芝2500m)が開催されました。本年半ばに着任されたばかりの Eduardo TEMPONE 大使閣下がレセプションのホストを務められ、多数の招待者・関係者で盛況でした。

TEMPONE 大使ご挨拶



アルゼンチン共和国杯を挟んで、永井理事長と TEMPONE 大使



外務省中南米局野口局長、同令夫人、永井理事長



18頭が出走し、優勝したのは1番人気のゼッフィーロ（J.モレイラ騎手騎乗、牡4）でした。直線で馬群を割って抜け出し、2着の5番人気マイケルウィルトスに1馬身差をつけた勝利でした。勝ちタイム2分29秒9。クビ差の3位には、2番人気チャックネイルと、同着で4番人気ヒートオンビートが入りました。なお、優勝したゼッフィーロの父親は、あのディーピンパクトで、これが待望の重賞初制覇となります。

レース終了後の表彰式では、TEMPONE 大使から馬主・騎手を始め関係者にアルゼンチン共和国杯が授与されました。



また、全レース終了後には、恒例のタンゴショーがパドックで開催されました。夕闇が迫る中、照明に浮かび上がった Daniel Urquilla・Mihoko Sakata ペアのダンスを堪能しました。

（ししどかろう：当協会業務執行理事）